

ASHINO

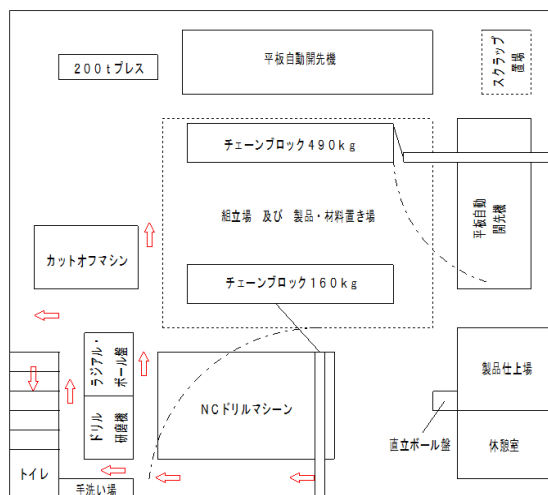
環境経営レポート

株式会社芦野製作所

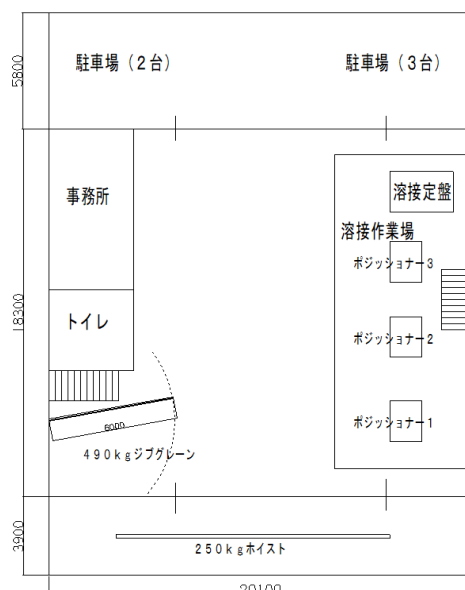
2023年度 第54期

(対象期間: 2023年9月1日～ 2024年8月31日)
(活動期間: 2023年9月1日～ 2023年12月31日)

本社工場



ナニワ工場



発行日: 2024年1月26日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6～11
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	12
緊急事態対応訓練	13
代表者による全体の評価と見直し・指示	14
これまでの環境活動の紹介	14



ごあいさつ

最初に、今回エコアクション21を初めて取り組みさせて頂き、大阪シティ信用金庫EA21スクールの先生方に大変親切な指導をしてもらっていると、弊社担当から聞いており、大変感謝しております。

エコアクション21の取得希望の理由は、弊社がISO14001の認定がある事もあり、カーボンニュートラルの取組みを昨年から行っていて、よい結果にはなっていると思っておりましたが、エコアクション21では、環境経営レポート作成と公表を要件と規定していることにより、数値データに基づく見える化により、次年度の評価・対策・目標をたてる事が容易になるであろうと思い認定取得希望しました。

今回、EA21を始める事になりましたが、昨年と今年の比較を見ると環境経営及びカーボンニュートラルに向けた取組みが少しずつ達成されているように思います。引き続き、無理のないカーボンニュートラルに向けた設備投資と従業員へカーボンニュートラルの取組みの意味の周知を徹底してもらいます。

環境経営方針

橋梁の補修・補強に必要な構造物の製造を通じて、インフラ老朽化の対策に取り組む、長寿命化に貢献することがわが社の企業価値であると考えます。構造物の性能を長期スパンで考え最適に保持して行くためには、使用性能、構造耐久性能だけでなく、環境負荷の重要性も認識し、考慮していく必要があります。自社の企業活動におけるエネルギー消費量、環境負荷を正確に把握し、最小化できるよう、社員一丸となって自主的・積極的かつ継続的に取り組んでまいります。

環境保全への行動指針

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 脱炭素化社会に向けて電力や燃料の二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 循環型社会に向けて廃棄物の発生抑制や再資源化に努めます。
4. 水資源の有効利用のため水の削減に努めます。
5. 溶剤など化学物質を使用する場合は適正管理に努めます。
6. 材料の廃棄や手戻りが起こらないよう徹底した管理体制を維持します。
7. インフラ老朽化の社会問題に貢献できるように企業価値向上に努めます。
8. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。



制定日：2023年9月1日

改定日：2023年11月22日

代表取締役

芦野 剛一

組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社芦野製作所
代表取締役 芦野 剛一

(2) 所在地

本社工場 大阪府大阪市西成区南津守5丁目6-46
ナニワ工場 大阪府大阪市西成区南津守5丁目12-4

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 代表取締役 芦野 剛一 TEL : 06-6659-6256
担当者 総務部 主任 村上 友子 TEL : 06-6659-6256

(4) 事業内容

建設構造材の製造及び製缶

(5) 事業の規模

売上高 352,000 千円

	本社工場	ナニワ工場	合計
従業員 名	12 名	5 名	17名
延べ床面積 m ²	490 m ²	563 m ²	1,053m ²

(6) 事業年度

9月1日～8月31日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 株式会社芦野製作所
対象事業所： 本社工場
ナニワ工場
対象外： なし
活動： 建設構造材の製造及び製缶

□事業の紹介

私たち株式会社芦野製作所は、橋梁鉄骨を中心として橋梁の補修・補強に必要な構造物の製造を始め、水門・鉄塔・鋼管の製造から土木・建築・一般鋼構造物の鋼材加工などを行っている金属加工の会社です。

色々な鋼材を必要とされる形に自在に製品化できる熟練した技術と高効率の生産体制で皆様のご要望にお応えいたします。

本社工場 設備

名称	メーカー	能力 (型式)	台数
ターニングロール	マツモト	許容荷重5 t	2
セルフアバンチャー	日東	22Φ (A06-1322型式)	2
ダイナオート溶接機	ダイヘン	CO2自動溶接、手溶接 (500GTX)、アークエアーガウジング兼用	1
アルゴンアーク溶接機	ダイヘン	HC-36	1
CO2自動溶接機	ダイヘン	500A	2
CO2自動溶接機	ダイヘン	500A SG500	3
アーク溶接機	ダイヘン	500A	1
アーク溶接機	日立	350A	2
卓上ボール盤	日立	13Φ	2
直立ボール盤	吉田	50Φ	1
クレーン	日立	2.8 t	2
平板自動開先加工機	シンクス	VXW-2000-5	1
平板自動開先加工機	シンクス	VXW-3000-5	1
NCドリルマシン	タケダ	ABP-1015GB-ATC	1
チェーンブロック	象印チェーンブロック	490kg	1
チェーンブロック	象印チェーンブロック	160kg	1
シャープカッター			1

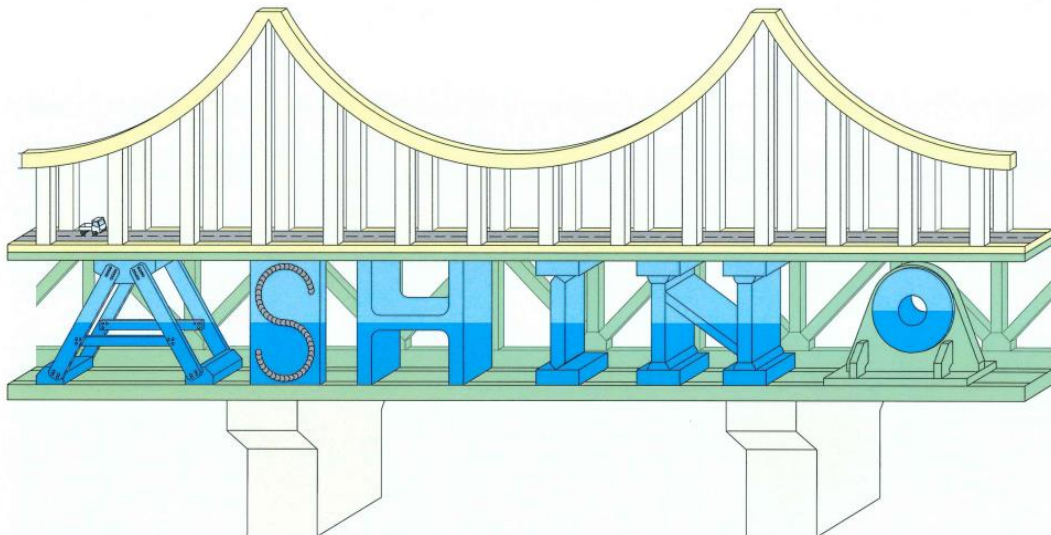
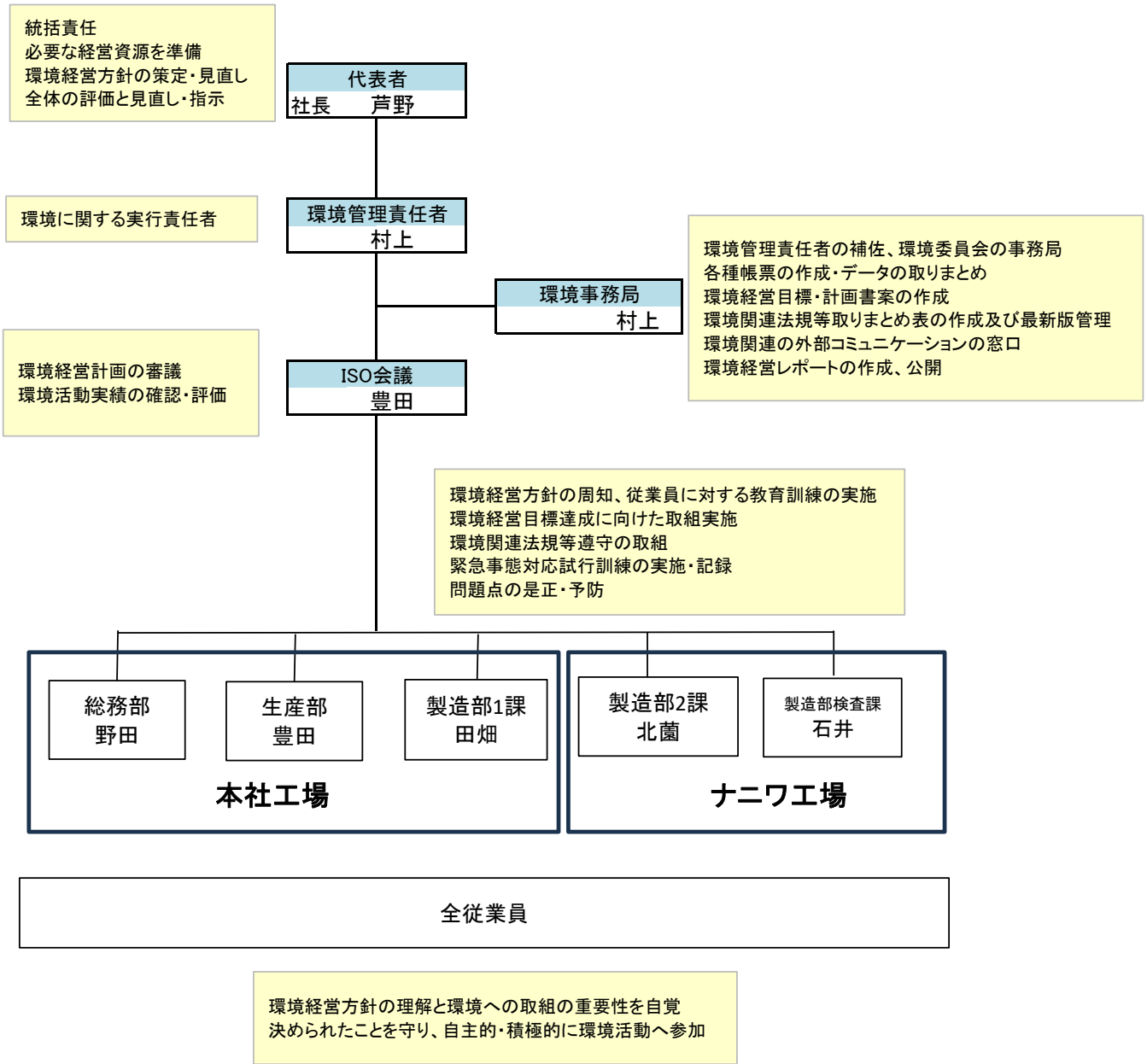
ナニワ工場 設備

名称	メーカー	能力 (型式)	台数
CO2自動溶接機	パナソニック	350A	4
CO2自動溶接機	パナソニック	500A	5
CO2自動溶接機	ダイヘン	500A	1
ダイナオート溶接機	ダイヘン	CO2自動溶接、手溶接 (500GTX)、アークエアーガウジング兼用	1
アーク溶接機	三菱	400A	1
アーク溶接機	DAIDEN	250A	1
ガウジング溶接機	ダイヘン	600A	3
クレーン	日立	4.8 t	2
チェーンブロック	象印チェーンブロック	490kg	1
チェーンブロック	象印チェーンブロック	250kg	1
溶接反転機	ヘラクス	1.8 t 用	2
ポジショナー	ユニバーサル	1.2 t 用	1
小型ポジショナー	マツモト		3



環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2023年9月20日



主な環境負荷の実績

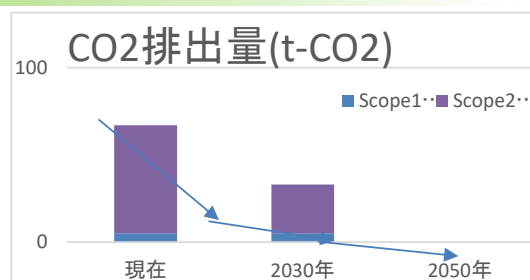
項目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂		67,415	22,788
Scope1 (化石燃料)	kg-CO ₂		4,976	2,012
Scope2 (電力)	kg-CO ₂		62,439	20,777
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg		1,430	521
産業廃棄物排出量	kg		12,660	4,900
水使用量	m ³		334	85
※電力の二酸化炭素排出係数 (調整後)			0.311	0.311
※2023年度のデータは期初から12月まで			関西電力(2021年度)	関西電力(2021年度)

kg-CO₂/kWh

カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み

単位: t-CO₂

	Scope1 化石燃料	Scope2 電力	対策
現在	5	62	省エネ
2030年	5	28	省エネ+再エネ電力
2050年	0	0	省エネ+電気自動車+再エネ電力



環境経営目標及びその実績

項目	年度	2022年度			2023年度			評価	2024年度		2025年度	
		2022年度		2023年度		2024年度			2025年度			
		(基準値)	(実績)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)		(目標)			
電力による二酸化炭素削減	kWh	200,769	196,754			192,738		190,731				
	活動期間	66,063	64,742	66,806	×							
	基準年度比		98%	101%		96%		95%				
	売上高原単位	kWh/千円	0.570	0.559	0.779	×	0.548		0.542			
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	62,439	61,190			59,942		59,317				
	活動期間	20,546	20,135	20,777	×							
	基準年度比		98%	101%		96%		95%				
	売上高原単位	kg-CO ₂ /千円	0.177	0.174	0.242	×	0.170		0.169			
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	66,801	65,465	22,624		64,173		63,505				
	kg	1,430	1,330			1,330		1,287				
	活動期間	510	474	521	×							
一般廃棄物の削減	基準年度比		93%	102%		93%		90%				
	kg	6,330	5,697			5,064		4,431				
産業廃棄物の削減	活動期間	2,430	2,187	2,450	×							
	基準年度比		90%	101%		80%		70%				
	m ³	334	317			307		301				
水道水の削減	活動期間	122	116	85	○							
	基準年度比		95%	70%		92%		90%				
材料の廃棄や手戻りが起こらない管理体制の		行動目標(次項による)										
インフラ老朽化の社会問題の解決		行動目標(次項による)										

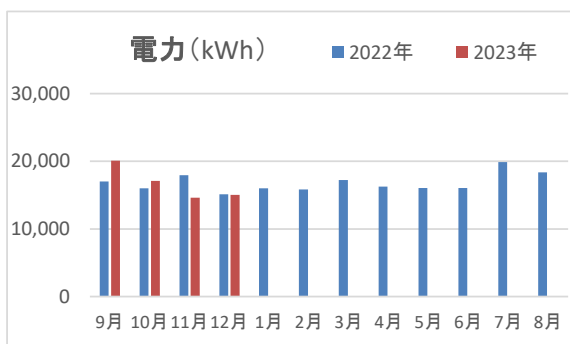
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標: ○達成 ×未達成
 活動: ○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取組期間9月～12月

電力

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	9月・10月は、溶接の仕事が多かった為、その分電気の使用量が多かった。働き方改革の実施で残業時間の短縮はできており、メリハリをもって仕事ができている。機械装置や照明・エアコン等の各種定期点検は実施できている。極端な気温の日は空調温度の適正化を徹底できないことがあった。目標達成手段を徹底するとともに次年度以降、空調設備の買い替えの際は省エネに特化したトップランナー製品を選びたい。
原単位目標	×	
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	
・不要照明の消灯	○	
・働き方見直しによる残業時間の短縮	○	
・生産方法の改善による時間短縮	○	
・空気圧縮機の点検(エア漏れ確認、掃除)	○	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2022年	17,019	15,997	17,940	15,107	16,009	15,814	17,204	16,251	16,058	16,058	19,874	18,358
2023年	20,069	17,079	14,632	15,026								

取組紹介欄



エアコンの適正温度を設定しました。
 冷房28℃/暖房20℃とし、リモコンにシールを貼って、みんなで守るようにしました。
 極端な気温の日には、クールベストや防寒着を活用し、服装で調節をしました。

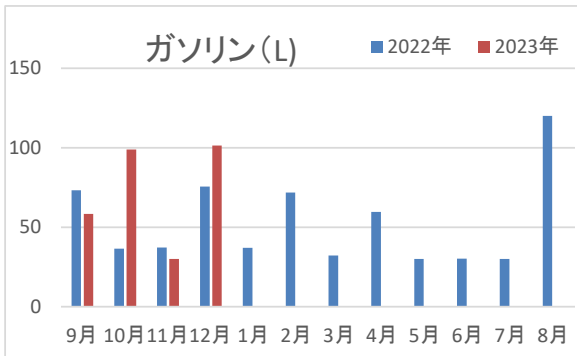


不要照明の消灯を心掛けました。
 室内の電気は部分ごとに分かれているので必要な部分以外は消灯し、電力の無駄を省きました。
 他にも、オン・オフの切り替えスイッチがついた電源タップを使用し、こまめに切っています。

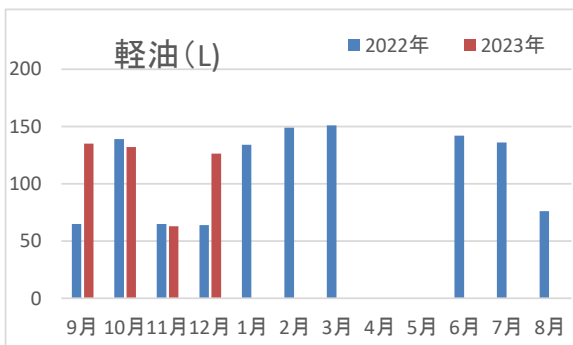


自動車燃料

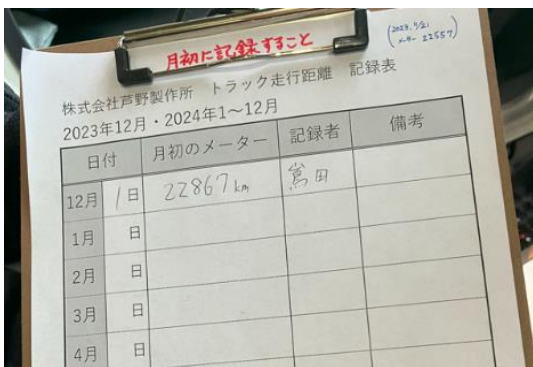
自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	走行距離の記録を始めた。 朝礼の際に、CO2削減のためのエコドライブの推奨と現状の把握のために走行距離の記録を始めることを伝え、従業員の意識向上と実施の周知徹底を促進した。 次年度は、今年度の走行距離を基準としルートの見直しを行い成果を出す。
・エコドライブの浸透	○	
・効率的なルートで配送	○	
・走行距離を記録する	○	



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2022年	73	37	37	76	37	72	32	60	30	30	30	120
2023年	58	99	30	101								



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2022年	65	139	65	64	134	149	151	0	0	142	136	76
2023年	135	132	63	126								



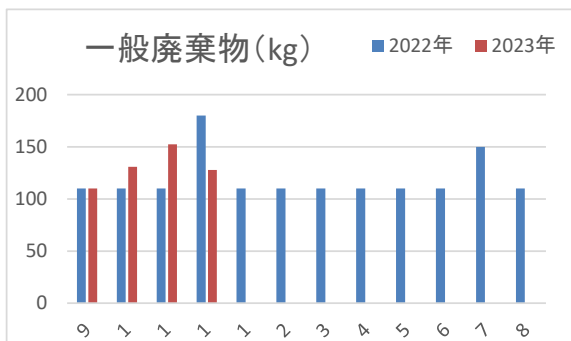
社用トラックのメーターを毎月記録し、1か月ごとの走行距離を把握できるようにしました。

また、商品の出荷の際に次の材料の引取をするなど、無駄な走行が無いように心がけています。



一般廃棄物

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	朝礼や社内連絡メールで3R活動について従業員の周知をはかった。ペットボトルは資源ゴミ、キャップや外部包装は包装プラゴミ、など具体的にアナウンスして分別を徹底できるようにした。毎日のゴミ計量を実施し、月単位でまとめ、ゴミの排出量を把握する。次年度は、今年度の量を基準とし削減のために種類・傾向を特定し見直しを行う。
・分別の徹底	○	
・裏紙利用・帳票見直しによる印刷物の削減	○	
・梱包材の再利用	○	
・ゴミの計量記録をつける	○	

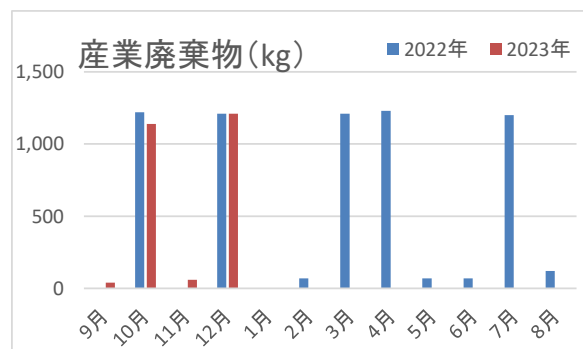


	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2022年	110	110	110	180	110	110	110	110	110	110	150	110
2023年	110	131	152	128								



産業廃棄物

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	工場製作管理フローチャート(ISO9001で管理)に沿って作業を進めるため、作業ミスによる廃棄は起こっていない。工程ごとの手順書も作成し、一覧表にして作業時に見やすい場所に掲示することでミスを防いでいる。次年度は、さらにより確実な方法を模索し廃棄の起こらない体制を確立させていきたい。
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	
・工場製作管理フローチャートの掲示	○	
・工程ごとの手順書の見直し	○	

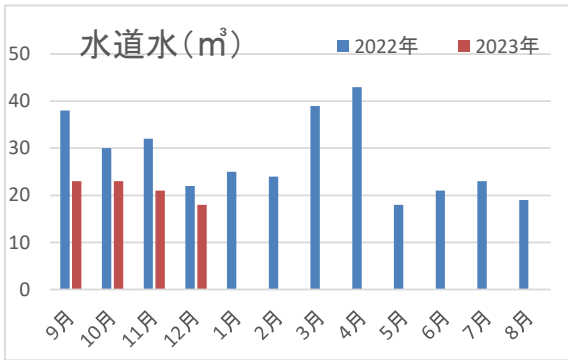


	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2022年	0	1,220	0	1,210	0	70	1,210	1,230	70	70	1,200	120
2023年	40	1,140	60	1,210								



水道水

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	節水シールを張ることで普段から節水を意識できるようになった。5月8月12月の大型連休前は元栓を閉めるように気を付けた。廃油の処分がある為、同じ処理業者に排水・汚泥が出た際の契約も結んでいるが、管理を徹底し、今後も排水・汚泥が出ないようにする。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・水栓の閉め忘れを防ぐ	○	
・排水・汚泥が出ないように気を付ける	○	

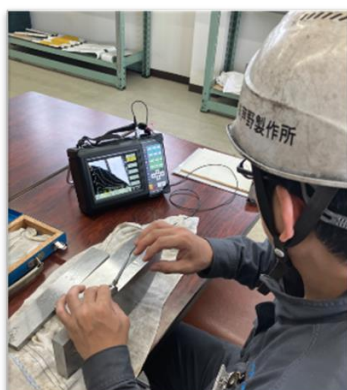


	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
2022年	38	30	32	22	25	24	39	43	18	21	23	19
2023年	23	23	21	18								

管理体制

材料の廃棄や手戻りが起こらない管理体制の徹底	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・プロセス管理 (ISO9001で管理)	○	超音波探傷試験の装置を導入し、出荷前・外部の立会検査前に自社であらかじめ非破壊検査を実施できるようになった。その為、溶接の欠陥がある場合に早期に発見・修正作業をすることができ、時短に大変効果が出ている。今後もこまめに社内検査することで、出荷後の欠陥指摘による時間・材料のロスが無いように継続していく。
・ミス・ロス削減 (ISO9001で管理)	○	
・検査方法の効率化	○	
・環境に配慮した材料の選択	○	

取組紹介欄



超音波探傷試験の装置の導入により、欠陥の早期発見が可能になりました。担当者の技術も日々進歩しており、資格取得のために毎日勉強しています。

社会問題の解決

インフラ老朽化の社会問題の解決	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・技術の継承(オペレーターの教育訓練)	○	SDGs宣言を自社HPと大阪府のHPIに掲載したことで、外部からの関心が高まり問合せが増えた。そこからのつながりで学生のキャリア学習のための工場見学の依頼があり受け入れをおこなった。インフラの老朽化問題について、またそれに貢献するわが社の取り組みを知ってもらう機会になった。働き方改革についても注力し、残業時間の削減のために毎週の工程会議で上長が残業時間の集計を確認し、規定時間を超えないように配慮している。
・企業価値向上(SDGs宣言)による問い合わせ	○	
・検査、測定資格の取得	○	
・自社HPの更新、工場見学の受け入れ	○	
・働き方改革(就業規則の改訂と順守)	○	

取組紹介欄



他府県の中中学生・高校生の会社訪問・工場見学の受け入れをしました。SDGsの取り組みについて関心の高い世代に、安心安全に長く住み続けられる街づくりのために、インフラ老朽化の対策が不可欠であることを伝えました。説明を担当した社員は、改めて自社のことを知り考えるきっかけになり、また、人にわかりやすく伝える難しさも経験するなど、学びの多い機会になりました。

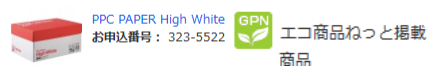


グリーン購入への取組

	696651 G Forestway/フラットファイルライ ト A4タテ とじ厚15mm 青 10冊 商品レビューを書く
	696655 G Forestway/フラットファイルライ ト A4タテ とじ厚15mm 黄 10冊 商品レビューを書く

コピー用紙やフラットファイルなどの消耗品は、購入の際にグリーン購入法適合商品やエコ商品ねっと掲載商品であることを必ず確認しています。使用量の多いものこそ、グリーン購入を意識して選択します。

今後は、適合商品を選ぶだけでなく、その商品が長く使える物であるか、また、本当に必要な者であるかを考え、廃棄の量や廃棄後の処理についても考慮し購入を検討するようにしたいと思います。



各事業所の取組紹介

<本社工場・ナニワ工場>



Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)の3R活動を推進しています。

ゴミの分別だけでなく、マイバッグを持ち歩きレジ袋や手提げ袋をもらわない、ランチ時にはマイ箸を持参し割り箸の使用量を少なくする、など各自ができることから取り組んでいます。

取り組みを始める際は、朝礼やミーティングで分別ルールを説明し、全社員に浸透するように心がけました。

<本社工場・ナニワ工場>



工場機械の洗浄時には、成分分解性99%の安心・安全なクリーナーを使用しています。

無毒性・非引火性・非揮発性のクリーナーを希釈したものを容器に詰め替え、経済的に使用しています。

日常的に使用する洗剤なので、環境に配慮した製品を選ぶように心がけています。

<本社工場・ナニワ工場> 様々な取り組み

- ・ 名刺 … FSC®森林認証紙を使用しています。
- ・ 印刷 … 可能な限り、裏紙の使用を徹底しています。
- ・ 梱包 … リサイクル材を使用しています。例)コピー用紙の箱など
- ・ コンセント … スイッチ付き電源タップを使用し、こまめに消しています。
- ・ 地域貢献 … 所属する地域の溝掃除に毎年参加しています。

- ・ 「芦野製作所 SDGs宣言」を社内各所に掲示しています。
また、全社員が制服の胸元にSDGsのバッジを付けています。
作業服に付けたこのバッジは、目立つため、お客様に気づいてもらいやすく、会社の方針を知っていただく良いきっかけになっています。



環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。



適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管・排出
騒音規制法	空気圧縮機、送風機の設置
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫の設置
労働安全衛生法	金属アーク溶接等作業を継続して屋内作業場で行う
自動車NO _x ・PM法	排気ガス規制に適合した自動車の使用
家電リサイクル法	特定家庭用機器をなるべく長期間使用・再商品化に必要な料金の支払い
グリーン購入法	できる限り環境物品等を選択するよう努める
顧客要求事項	・環境マネジメントシステムの運用　・環境管理、品質管理



環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

苦情・要請なし

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定: 火災の発生	
■実施日 2023年9月8日 (金) 本社 10:15	■実施場所 本社工場
■実施日 2023年9月8日 (金) ナニワ 15:00	■実施場所 ナニワ工場
■参加者 全社員	
■実施内容 <input checked="" type="checkbox"/> 通報訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練 119番通報（回線不使用）、社内非常放送、避難誘導、ガス元栓閉鎖・電源遮断、消火器設置場所確認等	
■評価： 各自素早い対応で避難することができた。訓練放送・訓練指導者の話をよく聞いて行動することができていた。	手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
■実施状況の様子	
	

緊急事態の想定: 地震の発生	
■実施日 2023年11月2日 (木) 10:00	■実施場所 本社工場・ナニワ工場
■参加者 全社員	
■実施内 緊急地震速報訓練放送による避難訓練 気象庁の緊急地震速報訓練放送が企業団地内のスピーカーから流れるのに合わせて避難訓練をおこなう。	
■評価： 9月の火災避難訓練同様迅速に避難できた。この時期に、自動メール配信の安否確認システムも導入した。	手順書の変更の必要 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
■実施状況の様子	
	

代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年1月26日

本格的に取組開始した9月以降のデータを収集方法など試行錯誤して確立する中で、1年間を通じて、全ての従業員がE21の取組む意識を持てた時、どのような結果が出るのか非常に楽しみです。

環境経営目標は達成していませんが、原因の一つとして昨年よりも従業員が増えた事に比例して数値が増加していると思われます。毎日の朝礼や週例会議の際に各取り組みについては意義と方法を都度、従業員に伝えていきますので、今後については特に心配はしていません。継続して取組んでいきたいと思えます。

カーボンニュートラルやSDGsの取組を進める会社として、以前から、中学生・高校生のキャリア教育を何回も受け入れしていますが、子どもたちだけでなく従業員にとっても学びの多い機会となっており、このような社会貢献活動は引き続き継続していきたいと思えます。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

これまでの環境活動の紹介



「事業継続力強化計画」の認定を受けました。今後も防災・減災の事前対策に積極的に取り組み、事業継続力強化の維持・向上に努めてまいります。



2050年のカーボンニュートラルに向けて大阪府が創設しました「脱炭素経営宣言登録制度」に登録いたしました。

編集後記 環境管理責任者 村上

ゴミの分別の徹底やコピー用紙の裏紙利用、節水、不要照明の消灯など、環境については、ISO14001の取得である程度活動しているのでも十分だと思っていました。昨今、「カーボンニュートラル」という言葉をテレビや新聞でよく目にしていましたが、無知の無責任から自分にはあまり関係ないことだという認識でおりました。むしろ大きい企業の企業活動だけが環境に影響するのだという思い込みさえありました。ところが、日本国内における大企業の割合は、約0.3%。なんと、大多数を占める中小企業こそが取り組まないといけな課題だったので。そんな当たり前のことに気付かせてくれたのがエコアクション21でした。

エコアクション21の取り組みの中で特によかったと感じたことは、二点あります。

一つ目は、企業活動で使用する電力や廃棄物の量などを数字で記録することです。実際にどのくらいの消費や廃棄があるかを把握し、それがどのくらいCO2の排出につながり、環境への負荷をかけているかを明らかにできるからです。そうすることで目標も立てやすく、会社として必要なこと、とるべき行動が明確になります。

二つ目は、環境方針を決めることで自社の企業価値を明文化できたことです。環境方針の中で、わが社のメイン事業である橋梁の補修・補強に必要な構造物の製造が、インフラの老朽化という社会問題の解決に貢献している、とを自信をもって掲げることができました。今後も、この事業を通して社会の為になる会社であり続けるためには、環境にかける負荷を認識し改善し続けなければなりません。そういった責任も込めた環境方針を策定することができてよかったです。

エコアクション21でおこなった取り組みの内容や記録の結果などをHPやSNSで発信していけたらと思います。それを見た中小企業で働く人たちが共感して同じように行動をしてもらえたら…それによって少しでも環境の負荷が少なくなったら素晴らしいことだと思います。また、キャリア学習の子供たちの企業訪問・工場見学を受け入れた際にも積極的に伝えていけたらと思います。